

しぜんさいがい
自然災害から
じぶん いのち まも
自分の命を守るために

しょうがっこう ねんよう
<小学校1~3年用>



山口県教育委員会

じ 震 ・ 津 波

2011年3月11日、東北地方を中心^にに東日本大震災が発生しました。

大きな地震とともに、巨大津波がおしよせ、とても大きなひがいが出て、たくさんの人^{ひと}がなくなりました。

山口県でも、地震がおきる可能性がありますし、地震によって津波がくることも考えられます。地震や津波へのそなえや地震がおきたときにどうすればよいか、日ごろからしっかりと考^{かんが}えておきましょう。

地震や津波から命を守るためにのそなえ

地 震

- 家族で話し合って、家具やテレビなどがたおれないようにしましょう。また、タンスや棚の上に重たい物などをおかないようにしましょう。
- 特に、自分が寝ているところに物が倒れてきたり、落ちてきたりしないように、寝室のタンスなどの位置には十分に気をつけましょう。
- 安全にひなんできるように、出入口や通路には物を置かないようにしましょう。



津 波

- 海の近くに住んでいる人は、津波にそなえたひなん場所を家族で話し合ってきめておきましょう。また、登下校中や家に子どもだけでいるときに地震がおきたときのひなん場所や、ひなん場所までの行き方についても、家族で決めておきましょう。



◇ たて物の中にいたとき

○ 家にいたら

- ・じょうぶなつくえやテーブルなどの下にかくれましょう。
- ・つくえやテーブルがないところでは、物が「落ちてこない、倒れてこない、移動してこない」ところで、低い姿勢でゆれがおさまるのをまちましょう。
- ・火を使っていたら、すぐに消せる場合は火を消し、すぐに消せない場合は、むりをして消さず、ゆれがおさまってから消しましょう。



○ 学校にいたら

- ・先生の言うことをよく聞いて行動しましょう。

<ひなんするときの4つのやくそく>



◇ 外にいたとき

○ 町を歩いていたら

- ・もっているかばんなどで頭を守り、物が「落ちてこない、倒れてこない、移動してこない」場所で、低い姿勢でゆれがおさまるのをまちましょう。



○ 山にいたら

- ・土砂くずれがおこる場合があります。がけの上や下からはなれましょう。

○ 海の近くにいたら

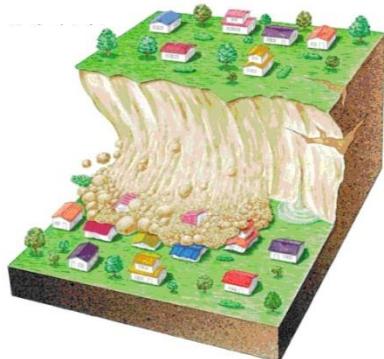
- ・すぐに海のそばをはなれ、高いところにひなんしましょう。



どしゃさいがい 土砂災害

日本には、雨のよくふる「つゆ」があり、夏から秋にかけて台風もたくさんきます。大雨がふって、山からどろ水がたくさん流れ出たり、山のしゃめんがくずれ落ちたりして、人や家にひがいがでることを土砂災害といいます。土砂災害は、「がけくずれ」「土石りゅう」「地すべり」の3つに大きくわれられます。

○ がけくずれ



あまみす
雨水などがたくさんしみこんだことにより、急なしゃめんがとつぜんくずれ落ちることです。



○ 土石りゅう



やま つち いし おおあめ
山の土や石が大雨などでくずれ、水とまじってどろどろになり、ものすごいきおいでのふもとに流れることです。



○ 地すべり



ゆるやかなかたむきのしゃめんが、ひろいはんいにわたって、ゆっくりとすべりおちていくことです。



どしゃさいがい 土砂災害から命を守るためにそなえ

◇ 「天気よほう」に注意しましょう

どしゃさいがい 土砂災害のおおくは、大雨が原因でおこります。雨がふったら、「天気よほう」をよく見て雨のふり方に注意しましょう。天気よほうで「1時間に20ミリをこえる雨」や「ふりはじめからの雨の量が100ミリをこえた」などのことばが出たら、土砂災害がおこりやすくなります。



○ 雨の量のめやす

天気よほうで「1時間あたりの雨の量が〇〇ミリです」とよく言います。雨がたくさんふっているときは下のめやすを参考にして、注意して行動しましょう。

[10~20ミリ]



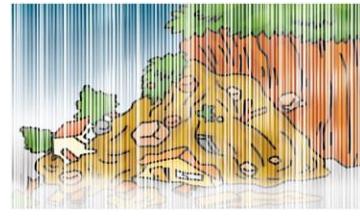
雨の音で話し声がよく聞こえなくなります。地面いちめんに水たまりができます。

[20~30ミリ]



どしゃぶりです。用水路があふれたり、がけくずれがおこったりする危険があります。

[30ミリ以上]



こう水や土砂災害の危険が大きいところでは、ひなんを始めてください。

【資料提供：NPO法人砂防広報センター】

どしゃさいがい 土砂災害の危険がせまつたら

土砂災害の危険がせまつたとき、いちばん大切なことは「早めにひなんする」とです。ひなんするときは、かならずおとなといっしょにひなんしましょう。

○ ひなんするときに気をつけること

- おとの手を、ぜったいにはなしてはいけません。
- 川や用水路には、ぜったいに近づかないようにしましょう。
- 山やがけの下は、さけてひなんしましょう。



たい ふう たか しお 台風・高潮

台風は、日本のずっと南の海で生まれ、あたたかい海でエネルギーをたくわえながら進んでくる、うずをまいた雲のかたまりです。

台風が日本にきた場合はもちろん、近くを通るだけで大雨がふったり、強い風がふいたりするので、注意しなければいけません。



○ 強い風によるひがい

台風が近づくと、強い風がふきます。強い風によって家や電柱、木などがたおれたり、電線が切れたりするひがいがおこります。また、強い風に飛ばされたかわらやかんばんなどが当たったり、風にあおられて転んだりしてけがをすることもあります。

○ 大雨によるひがい

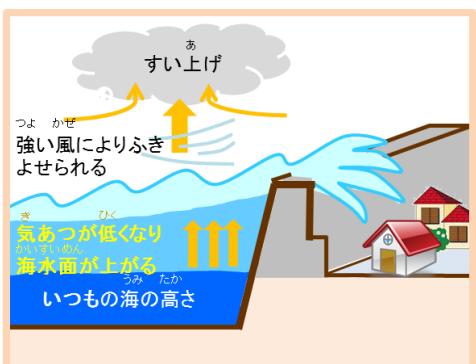
台風は、あたたかくしめた空気を南の海から運び、日本に大雨をふらせることができます。大雨によって、川の水があふれ出たり、土砂が流れ出したりして、大きな災害がおこことがあります。



[平成22年7月15日 山陽小野田市]

○ 高潮によるひがい

台風が近づくと、海面がいつもより高くなります。さらに、海の沖から岸に向かってふく強い風によって海水がふきよせられ、岸近くの海面がいっそう高くなります。これを「高潮」と呼びます。



たかしお 高潮がおきると、海水が防波堤を乗りこ
え、りく地に流れこみ、家が水につかった
り、船や車が流されたりするひがいがでる
ことがあります。



[平成11年台風18号(9月24日)：山口宇部空港駐車場]

高潮災害から命を守るためにのそなえ

◇ あぶない場所を知る

自分が住んでいるところは高潮がおきやすい場所かどうか、家人の人や地域の人には
聞いて確認しておきましょう。もし、高潮災害がおきやすい
場所であれば、ひなんする場所も確認しておきましょう。



台風が近づいてきたら

◇ 外に出ない

台風が近づいてきたときは、学校や家の中にいることが安全です。
学校にいるときは、先生の言うことをよく聞いて行動しましょう。
家にいるときは、天気よほうをよくたしかめて、台風が近づいてきそうなときは、
外に出ないようにしましょう。もし、外に出ているときに、急に雨や風がつよ
くなって、歩くことがむずかしくなったときには、近く
のたて物の中にひなんしましょう。

また、「ひなんかんこく」や「ひなんしじ」が出たとき
には、家族といっしょにすぐにひなんしましょう。



かぞく

家族でかくにん！ 日ごろからのそなえ

おお 大きな災害がおきたときのひなん場所などについて、家族で決めておきましょう。

じぶん 自分が住んでいるところでは、どんな災害がおきることが考えられるか、家族で話しません。

【ひなん場所について】

おお 大きな災害がおきたときのひなん場所について、家族で話し合って決めておきましょう。



○ 学校にいるとき

※学校にいるときのひなん場所を家族でも確認しておきましょう。

○ 家にいるとき

○ 登下校中

【ひじょうもち出し品をじゅんびしましょう】

じゅんびしてあるか、家族でチェックしましょう。

水



食べ物



お金・通ちょう・いんかん



かい中電とう



箫



着がえ



ヘルメット
(防災ずきん)



ラジオ



電池



ライター・マッチ



薬



がっこう
学校

ねん
年

なまえ
名前